子どもは一字から十字を連想できる

わたしは、この指導をしたあとで、「憤」という字を黒仮に書き、

「この字は、小学校では習わない字だが、よく考えれば、読み方も意味もわかりますよ。さあ、みんなで考えてみてください」

といいました。

わたしは、「フン」と読み、「心の中のものを外にはき出す」意味の字だ、と答えてくれればそれでよいというつもりだったのです。しばらくして、

「さあ、だれか」

と、うながしました。すると、何人かが手を上げました。そのうちのひとりをさしますと、その子は、

「音は、『フン』で、意味は『おこる』ことだと思います」

と、答えたのです。「心の中のものを外にはき出す」とは、「おこる」ことだと判断したのです。五年生でも、ここまでいくのです。これには、わたし自身が驚きましたが、参会者の先生がたはいっそう驚かれたようでした。

頭を鍛えるために役だつ漢字教育法

わたしは、さらに、「墳」という字を黒板に書いて、子どもたちに考えさせました。「憤」は「おこる」こととわかっても、これは、「おはか」とは、とてもわかるまいと思っていました。しかし、たしか、ふたりめの子どもだったと思います。りっぱに、

「おはかのことですか」

と、反問するように答えてしまいました。

うなったのは、わたしよりも、ごらんになっていた先生がただったでしょう。子どもの思考力・想像力というものは、わたしどもの想像以上のものがあります。こういう力は、使えば使うほど成長していくものです。子どもたちの思考力を練る、頭を鍛えるのに、これほどよい勉強法は他になにがあるでしょうか。そういう意味でも、こういう漢字の教え方は、すばらしい価値があるということができます。

しかし、いままで、この面の研究は、十分に行なわれていませんでした。心理学で、記憶のしかたとしてたいせつだといわれながら、研究する人がいなかったのです。

わたしは、いままで 20 年以上、この問題を研究してきました。第五巻「漢字は生きている」に述べてあることが、それです。これを活用していただけたら、だれでもきっとお子さんを漢字に強くできる、とわたしは自信をもっておやくそくすることができます。